

今月のこの1冊

キツネたちの宮へ

富安 陽子 著

信田ユイの家族で人間はパパだけ。だいすきなママはキツネ。そして、人間とキツネの血を引く三人の子どもは不思議な力をもっている。マンションに暮らすユイの所になんのまえばれもなく突然あらわれ騒動をおこすママの親戚のキツネたち。そんなユイの家族のお話。



ある秋の三連休一日目、ドライブ途中で走れども出口の見えないトンネルに出くわし、たどりついたのは、キツネ一族の集まる婚礼真っ最中の山の中。ユイたちは、結界のなかにとじこめられた。シリーズ6冊目の物語です。

みんな集まれ！子どもの広場・おはなし会

◇子どもの広場

内容 「お部屋で泳ぐこいのぼり」をつくります
持ち物 ハサミ カラーペン
日時 4月28日(土) 10:00～
場所 町民センター2階 小会議室A
申し込みは直接図書館へ または、☎82-5221

◇4月のおはなし会(第2土曜日、子ども読書の日)

日時 4月14日(土) 10:30～
4月21日(土) ～29日(日)
場所 町民センター3階図書館
申し込みはいりません

毎月1日は、【開成ファミリー読書デー】
家族みんなで本を読もう！

● 家庭・地域・学校などでの読書活動を推進するため、開成町では毎月1日を「開成ファミリー読書デー」にし、読書活動の定着・推進を図ります。

*文芸

開成町俳句協会

俳句

春の雨音もなく降るさびしさよ
口出しは控え目にして春障子
誰が為に香り放つや水仙花
里山は墨絵の世界春の雪

遠藤美津子

濱本 主雄
下沢 操子
瀬戸 悦子
遠藤 マツ子

芝田 みち子 選

ともしび短歌会

短歌

二月詠

古い木にも白梅かほる朝なり
過ぎたる望みはさらりと捨てむ

諸星 末子

近藤 正臣 選
清澄な朝、白梅の老木でさえ自分に応じた香りを発している。それを感じた作者は、欲目的期待をかけた時もあったが、状況を確認した生き方が大事だと悟り、その心境の変化を詠っている。

一冊の童話を暗記せる母は
縄を縛ふ手を止めず聞かせけり

府川ハツエ

多忙の中にも、一冊ごとの童話を暗記された母は、縄を縛う手を休めず語ってくれていたのだ。何故か、今は幼き日のこと、しみじみと思いつかれる。正に実生活の中の童話の世界を描いている。

競ひたる百人一首の友どちの
多くは鬼籍に入りしと聞きぬ

石井はま江

若かりしころの作者は、毎年、正月の百人一首大会に臨み、技を競い合った。その友達の多くも、今や故人になってしまった。青春時代を懐かしむと同時に寂しさが一層つのる昨今である、と詠んだ。



ぶらりと歩きながら開成町の文化を発見、歴史を再確認してみませんか。開成町に残る遺蹟を紹介します。



開物成務

「開成、いい名前！開いて成る、明るくて希望が湧いてくるようだね。でも、どうして開成という名前になったの？地名じゃないよね・・・」。町長時代。しばしば聞かれた。「昭和三十年に二つの小さな村が合併して町になった時、小学校の名前を町の名前にしたんだ。」と得意満面に答えました。明治十五(一八八二)年に開成と名前がついた小学校が延沢にできました。昭和三十年酒田村と吉田島村が合併。町の名前は、小学校の名前を取って開成としました。開成の語源は「開物成務(かいぶつせいむ)」、「物を開いて務めを成す」。「物」とは、人材、知識のこと。意識すれば「人を教育し世のため人のために尽くす」といったところでしょうか。中国儒教の古典『易経』から引用したものです。東京大学の前身は開成学校。大学受験で有名な私立開成学園。返子開成高校。全部語源は一緒。兄弟みたいなもの。開成が縁で開成学園の理事長の武藤敏郎さんと対談したことがあります。開成のおかげで思わぬ交流ができました。小学校から町の名前を冠したことになりますと教育に力を注がない訳にはいきません。開成町は、教育の町づくりを柱に掲げる使命があります。町が出来て節目の五十五年目の二〇一〇年、開成町に二つ目の小学校が誕生しました。開成南小学校。開成小学校と開成南小学校、互いに交流を深め、卒業生たちが、「開物成務」の言葉通りに、日本や世界へと羽ばたき活躍してくれることを信じています。(前開成町長 露木 順一)



開成小学校



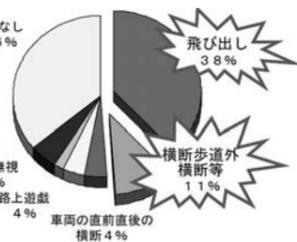
開成南小学校



松田警察署
延沢駐在所 ☎83-5434
吉田島駐在所 ☎83-5457

子どもを交通事故から守りましょう

【小学生の交通事故の特徴は?】
小学生の歩行中の交通事故は、約半数が飛び出しと横断歩道以外の場所を横断していたことが原因です。



【保護者の方へ】
お子さんと一緒に通学路を歩いてみましょう

特に4月から小学校に進学するお子さんがいる保護者の方は、通学路を実際にお子さんと一緒に歩いて、危険な箇所、注意しなければならぬ点を教えてあげてください。子どもは「危険」や「注意」などの抽象的な言葉の意味をよく理解できません。具体的に「何が危険」か、「どのように注意」しなければならぬかなどを教えてあげてください。また、お子さんが出かける前にしつこく、急がせたりすると、動揺し事故の原因になることもあります。時間にゆとりを持ち、笑顔で送り出しましょう。

【ドライバーの方へ】

子どもは、不意に予想がつかない行動をすることがあります。子どもの姿を見かけたら、スピードを落とし、その動きに注意してください。また、交差点を曲がる際には、付近に子どもがいなくても十分注意しましょう。

*「駐在所だより」は、今月号で連載を終了します。長い間ご愛読ありがとうございました。